

概 要
第 10 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：行財政改革について （令和 7 年中に方向性を出すことを検討している事業について）
日時：令和 7 年 11 月 12 日（水） 午後 2 時～午後 4 時 場所：西公民館 ホール 参加者：39 名 市出席者：森市長 総務部経営改革担当－政処部長、田外次長 総務部業務改革推進課－吉川係長、岡田係長 市民交流部－藤田部長
《市長のテーマ説明内容》 市民と市長の対話ひろば 11 月資料「検討を進めている事業の整理とこれからの政策を含む行財政改革について」をご参照ください。 《対話》 1 参加者【インフルエンザワクチン接種助成、健康寿命の延伸について】 ・近隣市では無料で接種できる地域もあるが、宝塚市では未実施のため、今後実施の検討をお願いしたい。 ・高齢化社会が進んでいることを踏まえ、私は予防医学の重要性を感じており、健康寿命を延ばす取組が必要と思う。特に、日常的に体を動かすことができる施設の建設や活動（例：ジム、ヨガなどに通う）に対する助成があれば良いのではないか。 ➡ 市長 ・市の厳しい財政状況を考えると、インフルエンザワクチンの実施については難しいが、国の状況を踏まえつつ検討が必要と思う。 ・健康維持や体力づくりは非常に重要であり、自立支援の一環として高齢者が要介護に至らないための基礎体力作りが大切。健康ポイント制度や宝塚のまちを歩きたくなるような環境づくりなど、市民の皆さんの健康増進に寄与するような取組を考えていきたい。 2 参加者【バス、タクシーの運賃助成について】 ・高齢者が通院や生活必需品の購入のために利用しており、この助成がなくなることは、憲法がうたう「健康で文化的な最低限度の生活」の保障という点で、特に年金生活者や低所得者においては命や健康に関わる問題につながると考える。そのため、所得制限を設けたとしても、運賃助成を継続してほしいと強く思っている。

➡ 市長

- ・運賃助成、つまり、市からの現金給付がなくなることによって影響を受ける市民が少なからず出てくる可能性があることは想像するものの、現金給付型のバラマキ政策ではなく、例えば生活保護制度や生活困窮家庭向けの制度などにより支援することや、個々の事情に応じた就労支援を中心に支援していく方向で考えている。なお、所得制限の導入については、宝塚市では所得が少なくても資産を多く持つ人が一定数存在すると思われることから、研究が必要だと考えている。

3 参加者【地域医療、福祉分野における地域貢献について】

- ・これまでの職歴や経験を生かし、地域医療や福祉の分野で地域貢献をしたいという思いから、ボランティアで地域支援を行ないたいと考えている。そのためにも、市からボランティア活動ができる機会をもらえないか相談したい。また、他の市民とも連携し、地域のために協力できることがあれば行なっていきたい。

➡ 市長

- ・ボランティアで地域貢献してもらうことについて、大変ありがたく感じている。今後、市民の皆さんにとっての地域貢献にかかる情報を提供するなどに取り組んでいきたい。

4 参加者【探究型教育、不登校の支援、市民病院等の建て替えについて】

- ・市内全域から通える特認校（西谷地区）で探究型教育が実現された場合、例えば仁川地区からでも通学は可能なのか。また、可能な場合はスクールバスが有るのか通学方法について具体的な情報が欲しい。
- ・不登校の子どもたちに対し、シニア世代の市民がボランティアで支援できる場があればと思う。各々の趣味や特技を生かして子どもたちと触れ合い、心のケアをする活動ができるのではないかと考えている。
- ・市民病院やクリーンセンターの建設と進行状況について関心がある。今後は半年に1回程度、広報たからづかで情報提供してほしい。

➡ 市長

- ・探究型教育については、来年1月の市民との対話ひろばで詳しく説明する予定。
- ・特認校への通学手段については、スクールバスを設けたとしても JR 武田尾駅と学校間になると思われる。そのあたりも含め、詳細については今後の話し合いで決めていきたい。
- ・不登校の問題は大きな課題であると認識しており、教育や福祉の観点からもどのように支援していくのか検討している。また、市民の皆さんの理解や協力を得ることも重要だと認識している。
- ・市民病院やクリーンセンターの進捗状況については、適宜、情報提供に努めていきたい。

い。

5 参加者【熊対策、道路の陥没対策について】

- ・近年、雲雀丘地域や長尾山トンネル周辺で熊やイノシシをはじめとする鳥獣の目撃情報がある。紅葉のシーズンが近づく中で、山に入る人々が増えると予想されるが、市としての対策はどのようなになっているのか教えてほしい。
- ・関東地方では道路が陥没する事故があった。下水道の問題など、宝塚市の対策はどうなっているのか教えてほしい。

➡ 市長

- ・本市では有害鳥獣等の目撃情報の収集や注意喚起を所掌する担当課を設置している。
- ・また、兵庫県は県全体における熊の出没情報を管理しており、対策を強化しているところである。市としても、県や警察、自衛隊などの他機関との連携の可能性を検討し、必要な対策を講じていきたいと考えている。
- ・上水道と下水道の老朽化への対応を含め、上下水道にかかるビジョンの案を作成しており、近々公開する予定である。併せて、本市は AI 技術を活用した管路の危険箇所の把握等にも取り組んでおり、今後も対策を進めていく。

6 参加者【環境問題について】

- ・環境問題を絡めた議論を提案したい。行財政改革と環境問題は切り離すことができないと思う。市は、財政健全化だけでなく、環境問題にも目を向けるべきではないか。市民一人ひとりが省エネと省資源を実践すれば、市の財政にも環境にも良い影響を与える。個人の行動が重要であることを市民に伝えてほしい。

➡ 市長

- ・環境問題については、前職時代からも関心を持って取り組んできた。私自身の知見も踏まえ、環境問題をテーマにした市民との対話についても前向きに検討したい。

7 参加者【削減効果、職員の人件費について】

- ・「今後 10 年間で累計約 63.2 億円の赤字」の削減について、本日示された「今年中に方向性を出すことを検討している事業」が達成可能かどうかを確認したい。
- ・宝塚市の職員数を阪神地区の他の市と比較した場合、市民 1,000 人あたりの職員数はどの程度なのか。歳出に占める人件費が大きいと、近隣自治体と比較して職員数が多いのであれば、職員数を削減することも必要ではないか。

➡ 市長

- ・今後の税収の増減や人件費の変動、扶助費の増などの不確定要素があるため断定することはできないが、税収等が現状と一切変わらないという仮定のもとであれば、本日示した見直し内容を実現することにより、約 63.2 億円の大半を削減することができる見

込みである。しかし、今年度の見直しが一段落したとしても、学校施設や道路などのインフラ維持・管理には多額の予算が引き続き必要であり、今回の改革で終わりということにはならない。

- ・宝塚市の職員数や給与額は、本市と人口規模が同程度の自治体と比較した場合、平均より少し低い数値である。ただし、本市の地域手当は、国が定めている基準において、若干高めの地域に設定されている。

8 参加者【障害者（児）医療費助成、福祉の方向性について】

- ・今回の提案にあたり、障害者から意見聴取した具体的な方法を教えてほしい。
- ・私は障害者の自立支援を推進することの難しさを感じている。障害者が社会参加する際の潜在的な差別意識や、就労支援および社会参加が十分でない現状を問題視している。市の自立支援プログラムや特別支援教育、就労支援の具体的な改善策を知りたい。また、市長としての福祉に対する認識や、今後の福祉施策の方向性についての考えを聞きたい。

➡ 市長

- ・障害者（児）医療費助成のあり方検討においては、宝塚市身体障害者福祉団体連合会や関係者などの意見を聴取した。ただし、身体障害者手帳 4 級を所持する市民だけで構成する団体は特に無い状況である。
- ・障害者の自立支援を促す施策は重要と考えている。一方で、現行の就労支援プログラムについては改善の余地があり、特に厚生労働省の施策が十分に機能していない面もあるように思う。いずれにしても、障害者も健常者も、誰もが分け隔てられることなく、一緒に活動するなどにより、地域で当たり前のように生活できる社会の実現を目指していきたいと考えている。
- ・そのためには、実効性のある施策を進めていく必要がある。全市域における福祉の新施設建設とともに福祉の拠点づくりを行ない、他市と比較して福祉にかかる予算が充実しているものの、施策分野によって軽重がある状況を改善するなど、今後目指すべき市民サービスを市民の皆様と対話しながら進めていきたい。

9 参加者【バス、タクシーの運賃助成について】

- ・私が住む地域は高齢者率が約 27%であり、健康促進と外出促進のために、運賃助成券を利用してバスやタクシーを利用している方々が一定数存在する。この制度は市民にとっての幸せなまちを作るためには重要な取組であると思う。ぜひ継続してほしい。
- ・宝塚市の第 6 次総合計画や SDGs が掲げる目標のひとつにも合致しているのではない。縮小や廃止ではなく、何とか維持できる見直し提案を望む。

➡ 市長

- ・重く受け止めたいが、運賃助成によってタクシーを利用する高齢者が増え、その結果と

してバスの利用が減少し、最終的にバス路線が撤廃される可能性があることも懸念されている。これまでに様々なご意見をいただいているが、現時点では決定しておらず、引き続き市民の皆さんのご意見を考慮しながら、最終的には市長である私が判断していく。

10 参加者【財政、福祉施策、福祉施設、市長の働き方について】

- ・宝塚市は全国的に知名度が高く、私は非常に誇り高く感じている。一方、東京から再び宝塚市に転居してきて、市の財政が厳しいことに驚いた。世間一般が持つ、宝塚市に対する裕福なイメージと実際の市の財政状況にギャップがあると感じている。
- ・私自身はリタイア後、ボランティア活動に参加しており、福祉分野で頑張っている方々を応援している。福祉の取組が今後も続けられることを期待し、全国的に自慢できる政策を目指してほしい。
- ・福祉の新施設建設においては、障害を持つ当事者と一緒に話し合いながら進めていくことを提案したい。
- ・市長がとても頑張っていることを評価したい。ワークライフバランスを大切にし、無理をせず健康に気をつけて働いてほしい。

➡ 市長

- ・たしかに市の財政は厳しいが、本市が持つブランド力と、経済的に豊かな市民が一定数お住まいであり、固定資産税や住民税が歳入における重要な要素である。このことは本市ならではの強みだと認識している。ただし、阪神・淡路大震災を起因とする市財政への影響や、少子高齢化に伴う扶助費の増、行財政改革の遅れなどが市財政に負担をかけているため、これからしっかりと行財政改革を進めることにより、市の財政的な力を取り戻すことは十分に可能である。
- ・新施設の建設については、当事者や関係者の意見を可能な限り反映させることが重要と認識している。ただ単に施設を建設することだけいいものではなく、実際に使いやすい施設になるように進めていくべきと考える。より良い施設にしていくために、当事者でなくても市民の皆様からも貴重なご意見をぜひお願いしたい。
- ・私自身の、そして市職員の働き方については、自らの健康管理に留意しながら、市民のためにしっかりと働いていきたい。

11 参加者【市立病院の精神科について】

- ・現在行われている、新病院建設に関する議論において、精神科の設置は考慮されていないという話を聞いて心配しているのだが、果たして本当なのか。

➡ 市長

- ・新病院に設置する具体的な診療科について、現時点では明確に決まっていない。精神科を設置するには精神科救急などの整備や様々な規制への対応が必要になることから難

しいのではないかと考えているが、現在は調査をしている状況である。今後も議論や検討を継続していく。